

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493600027		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームポラーノの杜		
所在地	気仙沼市所沢 201-1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 15 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 1 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東日本大震災で被災した苦い経験から、同規模の災害が起きても安全な高台へ移転したポラーノの杜は、一年を通して日当たり良好で、利用者様、職員ともに快適な毎日を過ごす事ができている。利用者様にとって我が家のように生活できるよう職員それぞれが各人のお気持ちに寄り添った介護を常に目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道気仙沼中央ICより車で約10分、小高い復興住宅街の一角に「グループホームポラーノの杜」がある。同法人のデイサービスが隣接し、イベント等で職員同士の交流がある。職員は情報を共有し、入居者に寄り添い、安心出来るような声掛けや見守り等を大切にケアに当たっている。天気の良い日は、周辺の散歩やプランターに花を植えたり、大川沿いの桜見物に出かけている。広々と明るい光が差し込むホールで食事を楽しみ、塗り絵をしたり、テレビを見たり、ゆったりと寛いだ生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様がいる。成年後見制度について理解ができるよう外部研修があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書と重要事項説明書等の内容を丁寧に説明し、理解していただけるよう努めている。分からない事があれば、問い合わせいただけるように伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。意見があった場合には職員間で共有し、運営に反映できるようにしている。	面会は予約制で短時間で行っている。誕生日には生花や甘い食べ物を持ってくる方もいる。法事の参加や病院付き添いの要望に応じている。毎月の担当者のコメントや写真入りの便りは家族から喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際には提案に耳を傾け意見交換を行い、より良いサービスを提供できるように取り組んでいる。	家族に金銭的に負担をかけないように紙おむつやパッドの使い方の工夫等を反映した。布団乾燥機の買い替え等随時要望に応じている。資格取得の支援や子育ての方の希望休等、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調や子育てなどで勤務時間や勤務内容に制限がある職員に対しては様々な条件を受け入れ、職場環境の整備と、個々の意欲向上に対し積極的に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者、職員のケアの力量を把握し研修受講の機会提供や資格取得を勧めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護サービス法人連絡協議会および行政主催の各種研修会に参加することで他事業所との情報交換や人脈づくりを行っている。	市内の他事業所と電話で人手不足の対応やコロナ対策について情報交換をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。地元の薬局より処方された薬を配達して貰い、薬の内容や飲み方の説明をして貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用段階では、本人と家族様が不安な事が多いため、様子を家族様にお伝えするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見を十分に聞き、それに沿うような支援と適切な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点より聞き取りを行い、利用者様・ご家族様が求める支援を把握し、適切に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が暮らしの中で可能な活動や好む活動を把握し、一緒に作業や活動に参加していただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、ご本人様からの希望や要望があればご家族様に連絡を取り合い、できる限り叶えるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店や好きな場所へ一緒に出向き、馴染みの関係が途切れないようにしている。	家族や遠方の親類が来訪している。家族と馴染みの理容室に行く方や、彼岸に墓参りをして自宅で食事をして来る方もいる。入居者同士、一緒に散歩やお喋りをして、楽しく過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事の中で、利用者様同士が交流できる環境を作るよう努めている。また利用者様の個性や性格を把握して楽しく会話ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居となった場合も状況把握に努めている。困った事があればいつでもホームに寄って頂いたり、電話で対応が可能な事をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の話を傾聴するように努め、上手く伝えられない利用者様には、表情や行動を見て思いをくみ取れるように務めている。	畑仕事をしながら子育てをし苦労した事や瓦職人をし屋根に上って働いたことなどの昔話を傾聴している。「パンやヨーグルトを食べたい」「好きな相撲や時代劇をテレビで見たい」等、思いを叶える支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話でこれまでの生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活記録や排泄記録を活用し現状を把握している。入居後も以前と同じ生活ができるように本人や家族の意見を取り入れながら環境作りを行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から認知症状の変化などの情報収集を行っている。出来る事は見守り、できないことや戸惑いがあった場合には一緒に取り組み、どんな支援を行ったかを記録している。	本人や家族の意向と医師の指示を基に、職員で話し合いケアマネが作成している。歩行困難になった方は、医師の指示で車椅子と見守りをプランに入れた。3か月毎にモニタリングし、変化がある時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあった際は、生活記録を活用して職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子から思いを汲み取り、ニーズを把握するように努めている。本人の言葉やその時々思いを考えながら個別支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ等の感染症に配慮しつつ、ボランティアとの交流を再開しており、地域とのつながりを徐々に増やすことができている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診しているかかりつけ医を継続している。ご家族様が同行する場合も状態変化や様子を的確に伝えられるよう記録を渡している。	本人と家族が納得し、安心できる入居前からのかかりつけ医を継続している。受診時は、職員や家族が付き添い、結果は受診報告書に記載し職員で共有している。夜間や緊急時は、管理者に連絡し対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきや変化をケア記録アプリに入力している。日々の健康状態を記録し変化があればかかりつけ医に上申書を活用して情報提供し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、必要な介護とその留意事項を情報提供書で提供している。電話等で家族や主治医、担当看護師より情報収集して状態を把握するとともに、退院後も帰園できるよう関係作りに務めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護度の変化、入院などの状況の変化ごとに家族と話し合い意向を確認している。食事摂取が難しくなった場合や浴槽の出入りが難しいなど重度化してきた段階で特別養護老人ホームの入所を家族と一緒に検討している。	「看取りに関する指針」「看取りに関する同意書」が明文化されている。重度化し医療行為が必要になった時、家族の希望を確認し、特別養護老人ホームの入所や医療機関への入院を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアルとして整備している。定期的な救命救急講習の受講を進めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施しており、2回とも消火器操作訓練を行った。災害時の水や食料の備蓄品は定期的に点検や入れ替えを行っている。	年2回消防署員立ち合いで、夜間想定を含む避難訓練を近隣住民に声掛けし実施した。署員より、居室前の札を「空」にひっくり返す、火元の扉を閉める、歩行困難な方はおんぶして避難するなど講評があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄などプライバシーに関わることは、声のトーンや声掛けの言葉を選ぶよう気をつけている。	名前は「さん」付けで呼んでいる。接するときは、同じ目線で寄り添い、思いを汲むようにしている。失敗時は、小声でさりげなくトイレや居室に誘導し、ドアを閉めるなどプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状が進行してきた利用者様には分かりやすい言葉でお伝えし、選択できるような声かけを行って自己決定が出来るように務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的に声掛けをするのではなく、必ずご本人様の体調や気分に合わせて一人ひとりのペースで了承を得ながら作業して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の生活習慣が生活が継続できるよう、身だしなみの支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一覧表を作成して苦手な食材は、代替品を提供して全量摂取をして頂くよう工夫している。誕生日や行事の際には利用者様のリクエストを取り入れている。	好き嫌いを考慮しながら、職員が調理をしている。盛り付けや配膳など出来る事をしてもらい、家庭的な雰囲気大切にしている。誕生日に、希望の焼き肉丼を食べた。梅シロップや干し柿を作り食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立表でカロリー、栄養バランスを調整している。むせ込みがある利用者様には、トロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの対応は、一人ひとりに合わせ声かけして利用者様に合った対応方法で清潔保持を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄する利用者様には、活動前や水分補給前後に声がけを行っている。オムツ交換の方はケアアプリを確認しながら交換している。	落ち着きがなくなる等のサインを把握したり、声掛けや車椅子介助でトイレでの排泄支援をしている。夜間は、ポータブルトイレやおむつなど個別に対応している。声掛けでおむつからリハパンに改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時の水分は乳飲料を提供し、15時には整腸作用のあるヨーグルトを取り入れている。排泄はチェック表を用い便秘の状況を把握している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴剤を使用し温泉の雰囲気を出したり、拒否がある場合は職員が交代し、声がけを行っている。入浴が難しい場合はシャワー浴や足浴の支援を行っている。	午後の入浴や好みの湯温、同性介助などに応じて、週2～3回の入浴支援をしている。湯上りにスポーツドリンクや麦茶を飲んでいる。「昔は男の方が優先で、今は男女同権で幸せ」等話ながら入浴している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や体力、ADLに合わせた活動の提案や午睡の声がけを行うように務めている。居室内の照明や室温調整も本人様の意見を取り入れながら調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書と医師からの説明書を受診記録に残し参照している。また服薬拒否がある時は声掛けを変えたり、時間をずらすようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の好みや、得意な作業を把握し、活動を提案している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を控えていたが、天気の良い日には、プランターの花の水かけや草取り、散歩を行い、季節を肌で感じて頂けるよう支援している。	暖かい日は、ホームの周辺を散歩したり、プランターに花を植えたり、洗濯物を干したりして過ごしている。ドライブで馴染みの大島やアジサイ見物に出掛けている。桜を見に近くの大川沿いを散策している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な金額をホームでお預かりし、そのお金は基本的にホームで管理しているが、希望や外出時など自由に使えることを利用者様に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望や相手方から了承した上で電話ができる様支援している。また本人様の希望に合わせて年賀状の準備や代筆を行うこともある。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓付きのホールは冬場でも明るく、年を通して光が差し込み過ごしやすい。また、利用者様の体調に合わせて温度管理にも配慮している。食堂ホールでは季節に応じた装飾や手作りカレンダーを利用者様と一緒に作成し季節を感じていただいている。	ホールは、日光が入り明るく、掃除が行き届き清潔である。ぬり絵で干支の辰や季節の羽子板、達磨などを飾っている。テレビで好きな映画や歌謡番組を見たり、ラジオ体操をしたり、ソファで寛いだり思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂ホールにソファを設置し、利用者様が自由に過ごせる空間を作っている。気の合う方同士が談笑されたり、思い思い好きなことをしながら過ごせるよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居室にて落ち着いて過ごせるよう家族様の写真を飾っている。思い出の物を持参して頂いている。	テレビや衣装ケース、布団、縫いぐるみ等を持ち込み、過ごしやすく工夫している。家族やひ孫の七五三の写真を飾っている。好きな本を読んだり、編み物をしたり、荷物を整理整頓するなど自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に表札を設置したり、トイレの表示は利用者様の目線に合わせて大きく表示している。廊下は移動の障害なる物や配線を置かないようにしている。		